

健康教育分科会

■ 基調提案

「『対話の授業』が意図し、目指していること」

齋藤治俊（静岡 岐阜聖徳学園大学）

■ 実践提案

「『新型インフルエンザ』で学んだことは…」

上野山小百合（大阪 八尾市立龍華小）

■ 実践提案

「アスベストから身体を守ろう」 武藤紳一郎（大阪支部 山滝小学校）

■ 参加者の感想（大会速報「かもがわ」より）

・健康教育について、整理された基調提案を聞き、よかったです。中村さんの時代に一回参加し、大阪支部の実践を何度も聞き、同志会の研究が発展していているのがよくわかりました。今日の講演の話とも一致しました。

また、どの教科でもいえる科学的概念と生活的概念を結びつける大事さはわかっていたが、どう結びつけるかがいつも悩むところだが、対話がひとつ道だなと思った。（大阪・Kさん）

・上野山先生と齋藤先生のお話の中で、「対話の授業」の点に魅かれながら聞いていました。単に子ども同士が交流するのではなく、保護者や地域あるいは社会とつながって考えていく考え方に一方通行ではないダイナミックさを感じます。

教科での知識等の差があっても、同じ場で学び合えるテーマがココにあるように思いました。

（京都・Oさん）

・私が、この分科会に毎年参加しているのは「健康」を考える上での原点に戻れるからです。折からの健康ブーム、CM ではサプリメント、そして健康は義務…。その中で「健康問題は社会問題である。」「健康であることは生存権に結びつく。」と認識することは、即、次からの授業に生きるとは限らないが、いつも根底にあることを忘れてはならないと思っています。(愛知・Mさん)

・小山先生の水と健康の授業のお話を聞き、まず教師自身が地域のことを真剣に考え、調べることが本当に大切なのだと感じました。子どもたちが関心をもつように保健の授業を進めるためには、子どもたちの関心のあることに結びつけなくては、教科書や指導案だけの授業になってしまうと思います。

教師が生徒に教えたいことをとことん勉強していくことが、伝えたいという気持ちにも繋がるのだと思いました。(東京・Kさん)

・保健という中学生からしたらあまり面白くなく、興味関心を抱くのが難しい教科でも、地域の問題に着目し、深く掘り下げて研究することで、魅力的な授業を展開していくことができることを感じた。ただ生徒の感想を読むと、一行だけの子から何行も書いている子がいて、全員に学ぶ意欲をもたせることの難しさも感じた。(Sさん、Mさん、Nさん)